

○秋收本學第一九五號

昭和十五年六月二十五日

秋田縣學務部長

各學校校長殿

學校體操男子教師訓練講習會開催ノ件

今回文部省主催標記講習會ヲ左記要項ニ依リ開催可相成ニ付受講希望者ハ六月末日迄ニ履歷書添附ノ上申出相成度

追テ受講ノ許可不許可ハ七月二十五日迄通知ス

尙許可セラレタル者ニ對シテハ一名ニ付金拾圓補助セラルベキニ付御了知相成度

學校體操男子教師訓練講習會要項

一、會 期 昭和十五年八月一日ヨリ同月十日迄ノ十日間

二、會 場 文部省菅平高原體育研究場(信越線上田驛乘換上田電鐵眞田驛下車是ヨリ自動車ノ便アリ徒歩ニテ二時間)

三、講習科目及講師

(1) 講 義

體育卜訓練

體育概論

日本精神トソノ鎮成法

救急處置

文部省體育官

佐久間 敬三

體育研究所技師

大谷 武一

東京高等師範學校教授

原 房孝

體育研究所技師

齋藤 一男

- 體操教材ノ取扱
- 歐洲體育界ノ動向
- 體操、遊戯及各種野外訓練ノ理論及實際

- (イ) 音樂
- (ロ) 勤勞生活訓練
- 四、救護

東京高等師範學校講師	本間茂雄
同	鶴岡英吉
體育研究所技師	大谷武一
同	本間茂雄
東京高等師範學校講師	鶴岡英吉
長野縣須坂高等女學校教諭	鶴岡貞方
全 講 師	
日本醫科大學醫員	佐藤 宏

五、講習員資格學校體操男子教師、學校關係者(學校長、體育運動主事補等)ニテ鍛鍊的生活ニ耐ヘ得ル男子ニシテ地方長官ノ推薦ヲ得タル者

六、講習員注意事項

- (1) 講習員ハ全部文部省菅平高原體育研究場ニ宿泊シ所定ノ規律ニ服シ、共同生活ヲ行フ
- (2) 講習員ハ講習科目ノ全部ヲ履修スルコト
- (3) 八月一日ヨリ規定ノ講習ヲ行フニ付講習員ハ七月三十一日午後四時迄ニ會場ニ參集ノコト
- (4) 定期ニ遅刻シタル者ハ講習員タル資格ヲ失フコトアルベシ
- (5) 全期間受講シ規定ノ科目ヲ履修シタルモノニハ修了證書ヲ授與ス
- (6) 用具及服裝
- (イ) 學校體操教授要目
- (ロ) 體操及遊戯用運動服(ズボン及パンツ)、運動靴、運動帽
- (ハ) リュックサック、飯盒、水筒、小刀等
- (ニ) 學習用手帳、日本紙、文房具類
- (ホ) 合宿所ニ於ケル上草履(若クハスリッパ)
- (ヘ) 針、木綿、糸類

七、講習員所要経費

- (1) 文部省ヨリ後日拾圓ヲ送付ス(九月末頃)
- (2) 居住地ヨリ会場マデノ往復旅費
- (3) 食費、寫真代、會同費其他貳拾圓

秋田縣報(明治四十年九月二十日)第三種郵便物認可(毎週火木土三回刊行)

秋田縣報

第千四百八十八號

昭和十五年六月二十五日

火曜 日

告示

○秋田縣告示第二百三十八號

昭和九年六月八日秋田縣告示第三百四十四號小學校教員檢定試驗參考書ヲ左ノ通變更ス

昭和十五年六月二十五日

秋田縣知事 留岡 幸男

小學校本科正教員參考書

科目	著者	書名	發行所	卷冊	備考
修身	吉田靜致	師範新修身書	實文館	五冊	
		學校新修身書			
		自卷一			
		至卷五			
文部省		師範修身書			
		自卷一			
		至卷三			
教育	篠原助市	輿近世教育史(改訂版)	實文館	一冊	昭和十五年度第二回ヨリ採用
	佐藤熊次郎	輿近教育學(改訂版)			昭和十五年度第一回限リ採用
		輿近各科教授法(改訂版)			
		輿近論理學(改訂版)			
		輿近心理學(改訂版)			
		同			
		同			
		同			
		同			

秋田縣報 第一四八八號

昭和十五年六月二十五日(第三種郵便物認可)

地 理		數 學	
中川一男	最新中等西洋史	同	開成館
有高巖	最新師範東洋史	同	一册
山崎直方	師範新制日本地理	同	昭和十五年第二回ヨリ採用
田中啓爾	師範新制日本地理	同	同
内田寛一	最新日本地圖	同	同
山崎直方	師範新制世界地理	同	同
田中啓爾	師範新制世界地理	同	同
三省堂編輯所	師範最近世界地圖	同	同
山崎直方	新制地理學通論	同	同
辻村太郎	新制地理學通論	同	同
田中啓爾	師範新地理概説	同	同
同	師範新日本地理(改訂版)	同	同
同	師範新外國地理	同	同
同	日本地圖(改版)	同	同
同	外國地理	同	同
西田與四郎	師範教育内外地理通説	同	同
文部省	尋常小學地理書卷一卷二	同	同
同	高等小學地理書卷一卷二	同	同
同	最新日本地圖(增訂版)	同	同
三省堂	最新世界地圖(增訂版)	同	同
同	最新世界地圖(增訂版)	同	同
竹内端三	新修算術	同	同
同	新修代數	同	同
同	新修幾何(平面立體)	同	同
同	新修幾何(幾何圖形)	同	同
二階源市	師範學校珠算教科書	同	同

秋田縣報 第一四八八號 昭和十五年六月二十五日(第三種郵便物認可)

書	樂	樂書刊行協會	中等音樂教科書 自卷一 教育オルガン教科書 至卷四	高井樂器店 四册
鳴崎 赤太郎	鳴崎 赤太郎	鳴崎 赤太郎	オルガン教科書	東京共益商社書店 一册
中田章	中田章	中田章	唱歌の歌ひ方と教へ方	同
福井直秋	福井直秋	福井直秋	新訂尋常小學唱歌伴奏附	同
文部省	文部省	文部省	體操科教科書 自卷一 學校體操の指導 至卷六	大日本圖書株式會社 六册
宮田覺造	宮田覺造	宮田覺造	體操科教科書	日本體育學會 一册
大谷武一	大谷武一	大谷武一	學校體操の指導	目黒書店 同
武揚堂	武揚堂	武揚堂	步兵操典	武揚堂 同
成武堂	成武堂	成武堂	訓練教程	成武堂 同
文部省	文部省	文部省	學校體操教授指針	目黒書店 同
文部省	文部省	文部省	尋常小學圖畫教師用	同
同	同	同	自第一學年至第六學年	六册
同	同	同	高等小學圖畫教師用	同
同	同	同	自第一學年至第二學年	二册
鈴川信一	鈴川信一	鈴川信一	師範用器畫 一 二 三	帝國書院 三册
波根義三	波根義三	波根義三	新制用器畫法全三卷	成武堂 三册
美育振興會	美育振興會	美育振興會	維新圖畫ノ理論ト實際	晚成所 四册
岡山秀吉	岡山秀吉	岡山秀吉	改訂增補 手工科教材及教授法	寶文館 一册
岡山秀吉	岡山秀吉	岡山秀吉	改訂新手工教科書 上 下	培蔭風 二册
伊藤信一	伊藤信一	伊藤信一	師範教科 改訂農業教科書上中下	六盟館 三册
佐藤寛次	佐藤寛次	佐藤寛次		

秋田縣報 第一四八八號 昭和十五年六月二十五日(第三種郵便物認可)

科目	著者	書名	發行所	卷冊	備考
武揚堂	武揚堂	步兵操典	武揚堂	同	
成武堂	成武堂	訓練教程	成武堂	同	
文部省	文部省	學校體操教授指針	目黒書店	同	昭和十五年第二回ヨリ採用
石井三造	石井三造	標準圖畫	帝國書院	三冊	
文部省	文部省	尋常小學國畫教師用 自第一學年至第六學年	晚成處	六冊	
美術振興會	美術振興會	維新圖畫の理論と實際	晚成處	全四冊	昭和十五年第二回ヨリ採用
樂書刊行協會	樂書刊行協會	中等音樂教科書 自卷一 至卷四	高井樂器店	四冊	
文部省	文部省	新尋常小學唱歌伴奏附 訂 自卷一至卷六	大日本圖書株式會社	六冊	
裁縫	古村千鶴	現代裁縫教科書 自卷一 至卷四	東京開成館	四冊	
文部省	文部省	尋常小學裁縫新教授書	大日本圖書株式會社	一冊	
修身	文部省	高等小學修身書 卷一 卷二 第三學年用	日本書籍株式會社	三冊	
教育	乙竹岩造	新教育教授法	培風館	一冊	
國語	文部省	日本教育教授摘要	同	同	昭和十五年第二回ヨリ採用
同	同	高等小學讀本 自卷一 至卷四	日本書籍株式會社	四冊	
同	同	高等小學讀本 第三學年用 上下	同	二冊	
保科孝一	保科孝一	昭和日本文法	育英書院	一冊	
山口彦總	山口彦總	新制中學書範 上	大日本圖書株式會社	一冊	
文部省	文部省	高等小學書方手本 第一學年第二學年第三學年用(甲種)	日本書籍株式會社	六冊	

秋田縣報 第一四八八號 昭和十五年六月二十五日(第三種郵便物認可)

科目	著者	書名	發行所	卷冊	備考
歴史	文部省	高等小學國史 上下 第三學年用	日本書籍株式會社	三冊	
地理	文部省	尋常小學地理書 卷一 卷二	日本書籍株式會社	二冊	
	同	附圖	同	一冊	
	同	高等小學地理書 卷一 卷二 第三學年用	同	三冊	
	同	附圖	同	一冊	
算術	田中啓爾	日本地圖(改版)	目黒書店	同	
	同	高等小學算術書 第一學年 第二學年 第三學年用教師用	日本書籍株式會社	三冊	昭和十五年度第二回ヨリ採用
	同	小學珠算書 甲種乙種教師用	同	二冊	
理科	文部省	尋常小學理科書 第四學年 第五學年 第六學年 教師用	日本書籍株式會社	三冊	
	同	高等小學理科書 第一學年 第二學年 第三學年 教師用	同	同	
音樂	樂書刊行協會	中等音樂教科書 自卷一 至卷四	高井樂器店	四冊	
	島崎赤太郎 編	オルガン教科書	東京共益商社書店	一冊	
	中田章 編	唱歌基本練習教科書	高井樂器店	同	
	大和田愛羅 編	唱歌の歌ひ方と教へ方	東京共益商社書店	同	
	福井直秋	新訂 尋常小學唱歌伴奏附 自卷一 至卷六	大日本圖書株式會社	六冊	
	文部省	ツエルニ一三十番	東京共益商社書店	一冊	
	ツエルニ一三十番	同	同	同	
體操	宮田覺造	體操教科書	日本體育學會	一冊	

著者	書名	発行所	冊数	備考
大谷 武一	學校體操の指導	目黒書店	一冊	
野口 源三郎	改正陸上競技法	同	同	
小笠原 道生	體育生理學綱要	同	同	
武揚 堂	步兵操典	武揚堂	同	
成武 堂	訓練教程	成武堂	同	
文部 省	學校體操教授指針	目黒書店	同	
佐々木 等	學校球技	同	同	
小室 信藏	一般圖案法	丸善株式會社	一冊	
文部 省	尋常小學國畫教師用 自第一學年至第二學年	帝國書院	一冊	
同	高等小學國畫教師用 自第一學年至第二學年	帝國書院	二冊	
同	教範用國畫	帝國書院	一冊	
鈴木 信一	小學ニ於ケル繪畫鑑賞 教授ノ原理ト實際	目黒書店	同	
堀 孝雄	新制用器畫法	成武堂	全三卷	昭和十五年度第二回ヨリ採用
波根 義三	維新圖畫ノ理論ト實際	晚成處	全四卷	同
美青 振興會	改訂增補 手工科教材及教授法	廣文館	一冊	
岡山 秀吉	改訂增補 手工科教科書上下	培風館	二冊	
岡山 秀吉	訂改增補 新手工科教材及教授法	同	一冊	
阿部 七三吉	小學手工科 作方、教方の家際	同	同	
阿部 七三吉	師範教科改訂	同	同	
佐藤 寛次	農業教科書上中下	六盟館	三冊	

秋田縣報 第一四八八號 昭和十五年六月二十五日(第三種郵便物認可)

通牒及照會

○秋收地第八一八號

昭和十五年六月二十五日

秋田縣總務部長
秋田縣學務部長
秋田縣經濟部長
秋田縣警察部長

各市町村長殿
各學校長殿

支那事變勃發三周年紀念行事ニ關スル件

來ル七月七日ハ支那事變勃發三周年ニ相當致候處現下内外ノ情勢ハ益々多事多難ナルニ鑑ミ支那事變一周年ニ賜リタル勅語紀元二千六百年紀元節ニ當リ賜リタル詔書ノ聖旨ヲ奉體シ舉國一體時局ニ對處シ億兆一心奉公ノ誠ヲ致シ以テ敬慮ヲ安ンジ奉ランコトヲ期スル爲別記要綱ニ依リ支那事變三周年紀念行事ヲ實施相成度此段及通牒候也

追而別記要綱ニ依ルモノノ外從來ノ行事其ノ他適當ナル行事ノ實施ハ差支無之ニ付御了承相成度尙貴部内各官公署、銀行、會社、工場、鑛山、事業所等ニ對シテハ要綱ノ趣旨ヲ市町村長ヨリ傳達ノ上充分ナル連絡ヲ圖ラルル様致度申添候

支那事變勃發三周年紀念行事秋田縣實施要綱

一、趣 旨

來ル七月七日支那事變勃發三周年ニ當リ、内外ノ情勢益々多事多難ナルニ鑑ミ愈々時局認識ヲ新ニシ以テ舉國一體、億兆一心時局ヲ克服スルノ國民的決意ヲ固メ東亞新秩序建設ノ國家的使命ニ邁進セザルベカラズ惟フニ本年ハ紀元二千六百年ニ當リ二月十一日紀元節ノ佳辰ニハ特ニ 詔書ヲ賜レリ我等臣民ハ支那事變一周年ニ賜リタル 勅語及紀元二千六百年紀元節ニ當リ賜リタル 詔書ノ 聖旨ヲ奉體シテ時局ニ對處シ至誠奉公以テ報慮ヲ安シ奉ランコトヲ期ス

二、實 施 方 法

(一) 縣民全般ノ實施事項

イ、國旗掲揚

全戸國旗ヲ掲揚スルコト

ロ、皇太神宮奉拜

全縣民ハ黎明起床シ各家庭ニ於テハ一家揃ツテ皇太神宮ヲ奉拜シ 皇室ノ御安泰ヲ祈リ奉ルト共ニ國威ノ伸張ヲ祈念スルコト

ハ、神社參拜並祈願祭參列

午前五時各戸一人以上最寄神社ニ參拜ヲ行フト共ニ市町村主催ノ祈願祭ヲ實施セル處ニ於テハ必ス之ニ參列スルコト

ニ、禁酒及宴會ノ廢止

絶對禁酒ヲ勵行シ公私ヲ不問宴會ハ催サザルコト

ホ、正午黙禱

正午ヲ期シ各々其ノ在所ニ於テ戰歿將兵ノ英靈ヲ追悼シ出征將兵ノ武運長久ヲ祈念スル爲三〇秒間黙禱スルコト

此ノ場合市町村長ハサイレン鐘等ヲ用ヒ周知方法ヲ講スルコト

ヘ、一戸一通慰問狀發送

各家庭ヨリ其ノ親戚知人ニシテ出征中ノ將兵ニ對シ一通以上ノ慰問狀ヲ必ス發送スルコト

右慰問狀ノ發送ニ付テハ市町村長ハ銃後奉公會、青年團婦人會、小學校等ト連絡ヲ執リ便宜葉書又ハ用紙ノ配布慰問狀ノ蒐集切手ノ貼用等ニ付協力セシメ必ス發送スル様措置スルコト

ト、出征遺家族ノ慰問並傷病將士ノ慰問

當日當該部落町内ヨリ出征シタル將兵ノ遺家族及傷病將士ノ慰問ヲ爲スコト

チ、其ノ他ノ實施事項

當日一月一通以上慰問狀ヲ發送スル外出來得ル丈慰問袋モ發送スルコト
又出征將兵遺家族並公益事業ニ對シテハ出來得ル限り勤勞奉仕ヲ爲スコト

(二) 市町村ニ於ケル實施事項

イ、勅語並 詔書奉讀式ノ舉行

當日市町村ニ於テハ支那事變一周年ニ賜リタル 勅語並紀元二千六百年紀元節ニ賜リタル 詔書ノ奉讀式ヲ舉行スルコト

(舉行時刻ハ任意トス)

ロ、講演會又ハ歸還將士ヲ團ム紀念會ノ開催

當日當該市町村在住ノ歸還將士ノ講演會又ハ座談會ヲ開催シ前線將士ノ勞苦ヲ偲フコト

ハ、新願祭ノ執行

市町村(部落會町内會)主催ヲ以テ早朝鎮守ノ神社ニ於テ前線將兵ノ武運長久ノ新願祭ヲ可成實施スルコト

ニ、其ノ他ノ實施事項

其ノ他模倣戰演習ノ實施、武道大會、耐熱行軍等體力鍛鍊ノ實施防空防火ノ訓練等記念行事トシテ適當ナル行事ヲ實施スルコト

附記

イ、一般市町村民ノ實施事項ノ徹底ニ關シ特ニ留意スルコト

ロ、當日ノ紀念會合等ニ際シテハ此ノ日ヲ期シ申合ヲ爲シ特ニ能率増進、増産勵行、銃後後援、節米實踐、貯蓄實行ノ徹底ニ努ムルコト

ハ、各行事ノ實施ニ當リテハ實業ヲ旨トシ紀元二千六百年ノ嚴肅ナル意識ヲモ感銘セシムルヤウスルコト

ニ、當日左記實施狀況ヲ七月十五日迄市町村長ヨリ總務部長宛報告スルコト

1、勅語並 詔書奉讀式ノ舉行狀況

(時刻、場所、參加人員等)

2、講演會又ハ紀念會ノ開催狀況

3、縣民實施事項ノ神社參拜(新願祭ヲ實施スル處ニ於テハ其ノ狀況共)狀況

4、各家庭ヨリ發送セラレタル慰問狀ノ發送狀況

5、其ノ他ノ實施事項

各學校ニ於ケル實施事項

イ、神社參拜

生徒児童ノ神社參拜ハ市町村長ト協議ノ上行フコト

ロ、勸語並 詔書ノ奉讀式ノ舉行

各中等學校ニ於テハ單獨ニ勸語並 詔書奉讀式ヲ舉行スルコト

各小學校青年學校ハ單獨若クハ市町村ト合同ノ上之ヲ行フコト

ハ、生徒児童ニ對スル訓話

生徒児童ニ對シ特ニ此ノ機會ニ於テ精神力ヲ振起セシムル如キ訓話ヲ行フコト

ニ、生徒児童ヨリ慰問文作文圖書等ノ發送

當日生徒児童ノ慰問文作文圖書等ヲ可成多ク當該學校ト關係深キ部隊ニ發送スルコト

ホ、當日ノ實施狀況ヲ七月十五日迄總務部長宛報告スルコト

各官廳、團體、會社、工場、事業所等ニ於ケル實施事項

イ、各官廳、團體、會社、工場、事業所等多數ノ職員従業員ヲ有スル所ニ於テハ市町村長ト連絡ヲ採リ一般縣民ノ實施事項ヲ實施スル外

勸語並 詔書ノ奉讀式ノ舉行、訓話、講演慰問文ノ發送等ヲ行フコト

ロ、當日ノ實施狀況ハ各官廳ニ在リテハ知事宛其ノ他ノ箇所ニ於テハ市町村長經由總務部長宛七月十五日迄報告スルコト

○秋收本學第一九五號

昭和十五年六月二十五日

秋田縣學務部長

各學校長殿

學校體操男子教師訓練講習會開催ノ件

今回文部省主催標記講習會ヲ左記要項ニ依リ開催可相成ニ付受講希望者ハ六月末日迄ニ履歷書添附ノ上申出相成度

追テ受講ノ許可不許可ハ七月二十五日迄通知ス

尙許可セラレタル者ニ對シテハ一名ニ付金拾圓補助セラルベキニ付御了知相成度

學校體操男子教師訓練講習會要項

一、會 期 昭和十五年八月一日ヨリ同月十日迄ノ十日間

二、會 場 文部省菅平高原體育研究場(信越線上田驛乘換上田電鐵眞田驛下車是ヨリ自動車ノ便アリ徒歩ニテ二時間)

三、講習科目及講師

(1) 講 義

體育ト訓練

體育概論

日本精神トソノ鎮成法

救急處置

文部省體育官 佐久間 敬三

體育研究所技師 大谷 武一

東京高等師範學校教授 原 房孝

體育研究所技師 齋藤 一男

體操教材ノ取扱

歐洲體育界ノ動向

體操、遊戯及各種野外訓練ノ理論及實際

東京高等師範學校講師

本間茂雄
鶴岡英吉

體育研究所技師

大谷武一

同

本間茂雄

東京高等師範學校講師

鶴岡英吉

長野縣須坂高等女學校教諭

鶴岡貞方

全 講 師

佐藤 宏

日本醫科大學醫員

佐藤 宏

- (一) 音 樂
- (二) 勤勞生活訓練

四、救 護

五、講習員資格學校體操男子教師、學校關係者(學校長、體育運動主事補等)ニテ鍛鍊的生活ニ耐ヘ得ル男子ニシテ地方長官ノ推薦ヲ得タル者

六、講習員注意事項

- (1) 講習員ハ全部文部省菅平高原體育研究場ニ宿泊シ所定ノ規律ニ服シ、共同生活ヲ行フ
- (2) 講習員ハ講習科目ノ全部ヲ履修スルコト
- (3) 八月一日ヨリ規定ノ講習ヲ行フニ付講習員ハ七月三十一日午後四時迄ニ會場ニ參集ノコト
- (4) 定期ニ遅刻シタル者ハ講習員タル資格ヲ失フコトアルベシ
- (5) 全期間受講シ規定ノ科目ヲ履修シタルモノニハ修了證書ヲ授與ス
- (6) 用具及服裝
- (イ) 學校體操教授要目
- (ロ) 體操及遊戯用運動服(ズボン及パンツ)、運動靴、運動帽
- (ハ) リュックサック、飯盒、水筒、小刀等
- (ニ) 學習用手帳、日本紙、文房具類
- (ホ) 合宿所ニ於ケル上草履(若クハスリッパ)
- (ヘ) 針、木綿、糸類

七、講習員所要経費

- (1) 文部省ヨリ後日拾圓ヲ送付ス(九月末頃)
- (2) 居住地ヨリ会場マデノ往復旅費
- (3) 食費、寫真代、會同費其他貳拾圓

昭和十五年六月二十五日印刷
昭和十五年六月二十五日發行
秋田縣報(增刊)第三種郵便物認可

(定價小口一枚金四厘)

秋田縣

印 印

秋田縣秋田市茶町梅之丁二十一番地
印刷所 那波合秋津活版印刷所
秋田縣秋田市茶町梅之丁二十一番地
印刷者 那波宗七

七月十日

第七號

印刷

副官

之

辰知發第一八號

昭和十五年七月四日

東京府知事西田周造

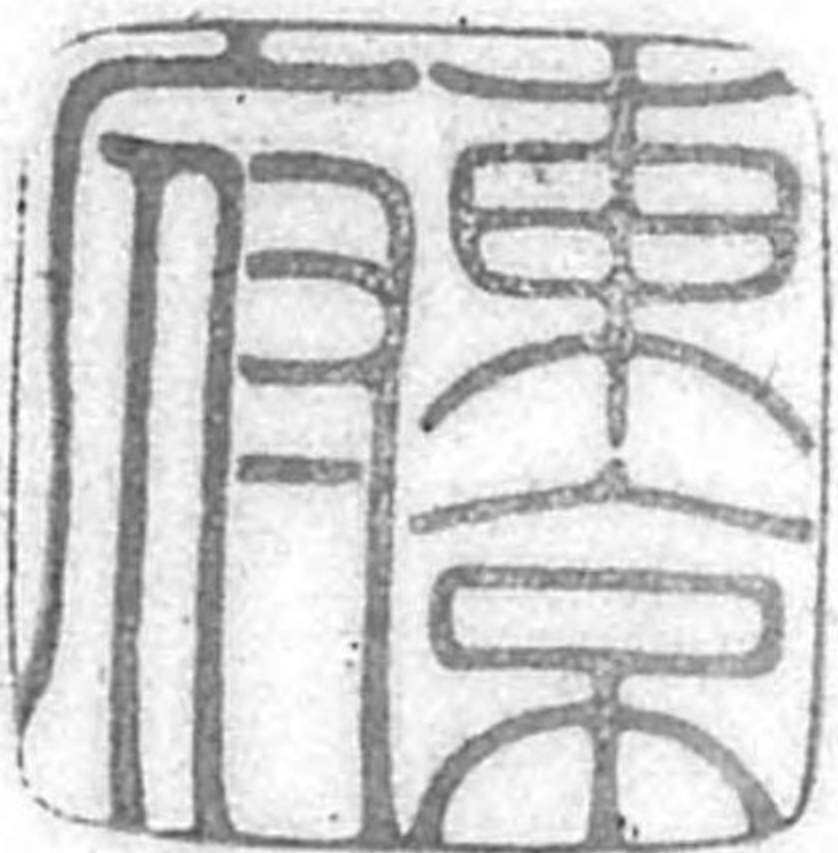
各省、道府縣廳御中

第三二九〇



改印、件

本府知事官印及府印、永年使用、結果甚
之、磨滅致、候、付別紙印影、通新調本
月五日ヨリ使用致、候、條及通知候也



Handwritten characters in seal script, possibly a name or a studio name, located on the left margin.

Handwritten characters in seal script, possibly a name or a studio name, located on the left margin.

陸普

別官ヨリ出願人ノ通牒(旅順要界司令部終由)

六月八日附南空發第五七號ノ首題ニ開スル
件、願出ノ通牒可セラレタルニ付依命通
牒ス

陸普第四七〇三號

昭和五年七月九日



三六

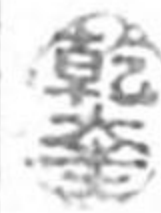
旅要地第五二號

航空搭乗者追加願ニ關スル件申請

昭和十五年六月廿九日 旅順要塞司令官井出宣時

陸軍大臣 畑 俊六 殿

別紙六月八日關空發第五七號ニ依ル首題出願ノ件小職ニ於テハ許
可支障無之意見ニ付認可相成度申請ス



陸軍



陸軍大臣
畑 俊 六 殿

七號

年六月八日

滿洲空務協會關東州本部會長三浦直彦

陸軍省領 壹第 三三一 四 號

昭和 15.7.6 防衛課

陸軍省 15.7.6 387 防衛課



滿洲空務協會關東州本部

航空許可證搭乘者追加願

昭和十四年九月十三日附陸軍省許可證第一三九號及昭和十四年十二月二十八日附陸軍省許可證第一七八號ヲ以テ御許可相成居候搭乘者ニ關シ今般左記ノ者追加方御許可相成度此致及願出候

記

一等飛行機操縦士技術證明書 大連市大山通關東遞信局内

二等航空士技術證明書 滿洲空務協會關東州本部航空部

一等飛行機操縦士免狀

二等航空士免狀 教官 岡部 巳 則

意見

見書

滿洲空務協會關東州本部會長

三浦直彦

物地

中令ニ依リ

右者關東州防禦營造

航空許可證
搭乗者追加願方申

請テリタルニ付調査シタルニ許

可支障ナキト思料ス

昭和十五年六月八日

大連憲兵分隊長 中頭

大連憲兵分隊長 中頭印

陸軍大臣 畑俊六 殿

第一號

決行後 覽回		連		決行指定		決裁指定		保存期限	
長(部)局		長(部)局		大臣		件名		番受領	
				委		伯國技術者工場見學許可件		壹第 二四八四號	
				政務次官					
				委					
長課		長課		長局務主		官副級高		官與參	
		防衛 工政 銃砲		河村		河村		河村	
				長課務主		副官		書記官	
				河村					
				員課務主					
				房官臣大		課局務主			
				了結領受		出提領受		號番	
		昭和 年		昭和 年		昭和 年		軍務課第五八號	
		五月廿八日		昭和拾五年五月廿八日		五月 日			
		七月一日							

政務官回付(決行前)

陸軍

(決行後)

審案

陸軍

陸

軍

起元應(課名)

東京電氣株式會社

(陸普)

副官ヨリ東京電氣株式會社長宛(兵器
本部經由)通牒

五月十五日附東電陸機密ノ發第五二號出願ニ係
ル首題ノ件許可セラレ^{機密}通牒不候也

追テ見學許可範圍ハ軍用資源秘密保護法ニ
依ル秘匿箇所ヲ除キ^トカレ度為念申添候

陸普第三五〇一號

昭和十五年五月廿八日

副官ヨリ憲兵司令部總務部長及海軍省

副官宛通牒

首題ノ件左記ノ通許可セラル

記

一、見學者國籍 伯國

二、見學者氏名 アルベルト・レリオ・モレイラ

(略歴別紙ノ通)

三、見學場所

東京電氣株式會社工場(川崎市榑地)

四、見學年月日

昭和十五年六月四日

五、見學指導者

逓信技師 鈴木 吉

陸普第三五〇一號

昭和十五年五月廿八日



略歴書

本人氏名

アルベルト・レリオ・モレイラ

國籍

伯國人

生年月日

一九一六年二月六日生

學歷

一九三八年一二月 リオデジヤネイロ工科大学卒業

資格(職業)

伯國遞信技師

其ノ他

商工省ノ斡旋ニ依リ貿易組合中央會招致工業視察員トシテ約三ヶ月間滞在ノ豫定

陸軍省 第一四八四號

監理官

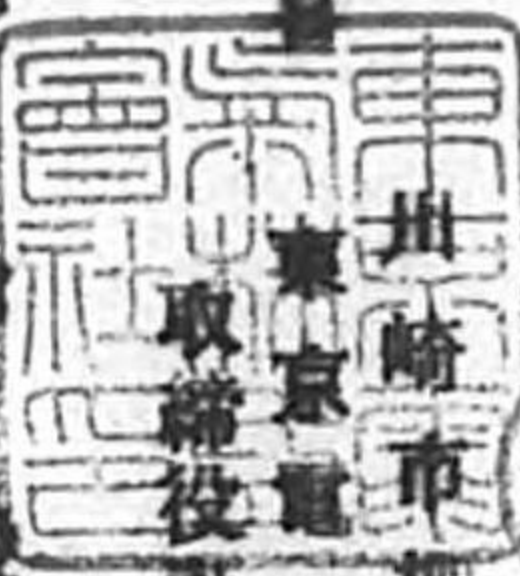


陸軍兵器本部經由
東電陸機密ソ發第五二號

昭和十五年五月十五日

陸軍大臣 畑

俊 六 殿



東京電氣株式會社
取締役社長 清水 與七郎



軍昭和十五年五月廿二日	經由第一二一號
-------------	---------



伯國技術者工場見學許可願

伯國遞信技師 アルベルト・レリオ・モレイラ氏弊社工場見學ノ件ニ關シ
遞信省工務局長ヨリ別紙寫ノ通り依頼有之候ニ付御許可相成度此段及御願候也





工調第五〇〇號

昭和十五年五月七日

逓信省工務局長

荒川 大太郎

東京電氣株式會社

社長 清水 與七郎 殿

拜啓 商工省幹旋ニヨリ貿易組合中央會及電氣通信協會招致工業視察員トシテ本邦電氣通信事業視察ノ爲在留中ノ伯國逓信技師アルベルト、レリオ、モレイラ氏ニ對シ軍用資源秘密保護ノ主旨ニ反セサル範圍内ニ於テ貴施設見學セシメ度候條便宜供與方可然御配慮相煩度此段及御依頼候

追テ右ハ海軍省軍務局長及陸軍省整備局長へ支障ノ有無ニ關シ照會中ニ有之爲念申添候

一見學者氏名

アルベルト、レリオ、モレイラ

Alberto Lelilio Moreira

(略歴別紙ノ通)

二見學指導者

逓信技師 鈴木 吉

見學月日

六月四日

尙軍用資源秘密保護法施行規則第十四條ノ主旨ニヨリ貴社ヨリ
モ陸軍大臣へ許可申請方御手配相煩度

略 歴 書

本人氏名

アルベルト・レリオ・モレイラ

ALBERTO

LELIO

MOREIRA

國 籍

伯 國 人

生 年 月 日

一九一六年二月六日生

學 歴

一九三八年一二月 リオデジャネイロ工科大学卒業

資格(職業)

伯國通信技師

(*Engineer of Brazilian Post-Office & Telegraph Department*)

其ノ他

商工省ノ幹旋ニ依リ貿易組合中央會招致工業視察員トシテ約三ヶ月間滞在ノ豫定

略歴書

本人氏名 アルベルト・レリオ・モレイラ

國籍 伯國人

生年月日 一九一六年二月六日生

學歷 一九三八年一二月 リオデジヤネイロ工科大学卒業

資格(職業) 伯國遞信技師

其ノ他 商工省ノ幹旋ニ依リ貿易組合中央會招致工業視察員

トシテ約三ヶ月間滞在ノ豫定

陸軍 第二四八四 號 共一

監理官

陸軍兵器本部經由
東電陸機密ノ發第五五號

昭和十五年六月十日

陸軍大臣 畑 俊 六 殿

外國人工場見學狀況報告

五月二十八日付陸普第ニム〇一號ヲ以テ御許可相受候左記ノ者弊社
工場見學ハ別紙ノ通り終了致候此段及御報告候也

記

伯國通信技師 アルベルト、レリオ、モレイラ氏

陸軍兵器本部	
昭和十五年六月十日	前午
經由第ニム〇一號	號

東京市東區東區東區町一、二〇〇番地
東電陸機密株式會社
取締役社長 清水 與七郎

陸軍 15.6.20 404 軍務課



外國人(武官)工場見學報告

昭和十五年 六月 四 日

東京電氣株式會社

國籍		ブラジル國
		伯國通信省技師
氏名		アルベルト・レリオ・モレイラ
見學月日及見學工場名		昭和十五年六月四日 午前十一時ヨリ午後四時 東京電氣株式會社 柳町工場、機器工場、工作工場、真空管工場、研究課 但軍事上秘密ノモノヲ除ク
見學ノ目的		日本ニ於ケル電氣通信事業ノ觀察ニアルガ如シ
体格及外觀上ノ特徴		背ハ五尺五六寸ニシテ瘦軀瀟洒ナル体軀ナリ
特有ノ技能及性格ノ概要		無線機及真空管ニ關シテハ相當ノ技能アルモノノ如シ 性格ハ明朗ニシテ眞面目ナリ

軍事能力ノ 程度及將來 ノ豫想	見學中ニ於 ケル舉動並 一般ノ景況等	日本語修得 ノ程度及對 日感情	其ノ他參考 トナルヘキ 事項
軍事能力ハ凡ソト認メラレズ	工場内ニ於ケル見學中ノ態度ハ終始眞面目ニシテ非常ニ熱心ナル態度ニテ見學セリ 技術的方面ニハ熱意ヲ以テ見學セルモ特ニ工場内ノ一般狀勢ヲ觀察スルガ如キ態度ハ認メラレズ	日本語ハ殆ソド解セズ英語ハ流暢ニシテ對日感情ハ良好ト認メラレ	一 案内並説明者 機器工場課長 宮地 輝成 (終始英語ニテ應對セリ) 一 他ニ應接者 道田 取締役、池田 製造部副長 足田 營業部副長 蜂谷 庶務課長 一 遞信省ヨリ 黒川 技師同行ス



閱

昭和拾五年六月拾八日

監理官

大崎在勤所經由

陸軍航空本部東京監督班經由

陸軍兵器本部經由
東電檢査書ノ發第五五號

昭和十五年六月十日

陸軍大臣 畑 俊 六

陸軍省 昭和十五年六月二十七日 午後六時

東京市本町一丁目二〇〇番地
東電檢査社 社長 清水

陸軍省 昭和十五年六月二十八日 事務課

航空本部 昭和十五年六月二十五日

東京監督班
昭和十五年六月二十七日
官督監任組

陸軍航空本部
經由庶第五三三號
昭和十五年六月二十七日

外國人工場見學狀況報告

五月二十八日付陸軍省第一四〇一號ヲ以テ御許可相受候左記ノ者弊社
工場見學ハ別紙ノ通り終了致候此段及御報告候也

記

伯國通信技師 アルベルト、レリオ、モレイラ氏



外國人(武官)工場見學報告

昭和十五年六月四日

東京電氣株式會社

國籍		ブラジル國
		經歷
氏名		アルベルト・レリオ・モレイラ
概要		伯國通信省技師
見學月日及見學工場名	昭和十五年六月四日 午前十一時ヨリ午後四時 東京電氣株式會社 總町工場、機器工場、工作工場、真空管工場、研究課 但車庫上程時ノモクハシク	
見學ノ目的	日本ニ於ケル電氣通信事業ノ觀察ニアルガ如シ	
体格及外觀上ノ特徴	背ハ五尺五六寸ニシテ瘦弱諸病ナル体類ナリ	
特有ノ技能及性格ノ概要	無線機及真空管ニ關シテハ相當ノ技能アルモノノ如シ 性格ハ明朗ニシテ真面目ナリ	

<p>軍事能力ノ 程度及將來 ノ豫想</p>	<p>見學中ニ於 ケル舉動並 一般ノ景況等</p>	<p>日本語修得 ノ程度及對 日感情</p>	<p>其ノ他參考 トナルヘキ 事項</p>
<p>軍事能力ハ凡ソト認メラレズ</p>	<p>工場内ニ於ケル見學中ノ態度ハ終始眞面目ニシテ非常ニ 熱心ナル態度ニテ見學セリ 技術的方面ニハ熱意ヲ以テ見學セルモ特ニ工場内ノ一般 狀態ヲ觀察スルガ如キ態度ハ認メラレズ</p>	<p>日本語ハ殆ソド解セズ英語ハ流暢ニシテ對日感情ハ良好 ト認メラル</p>	<p>「案内並説明者 機器工場課長 宮地 輝成（終始英語ニ テ應對セリ）」 「他ニ應接者 道田 政博役、油田 製造部副長 疋田 信康部 副長 鎌 谷 隆 務 課長 「通信者ヨリ 黒川 技師 同行ス 東京商工會議所</p>





昭和十五年六月拾八日

監理官 大崎在勤所經由

陸軍航空本部東京監督班經由

陸軍兵器本部經由
東電機機務ノ發第五五號

昭和十五年六月十日

陸軍大臣 畑 俊 六 殿

外國人工場見學狀況報告

五月二十八日付陸普第マム〇一號ヲ以テ御許可相受候左記ノ者弊廠
工場見學ハ別紙ノ通り終了致候此段及御報告候也

記

伯國通信技師 アルベルト、レリオ、モレイラ氏



東京市東區町一ノ二〇〇番地
電氣株式會社
社長 清水 興七 郎

東京
陸軍監督第一一三九號
昭和十五年六月十日
官督監任班

陸軍航空本部
經由庚第五三三號
昭和十五年六月二十七日

航空本部
15.6.25
受付

外國人(武官)工場見學報告

昭和十五年 六月 四日

東京電氣株式會社

國籍	ブラジル國	經歷	伯國遞信省技師
氏名	アルベルト・レリオ・モレイラ	概要	
見學月日及見學工場名	昭和十五年六月四日 午前十一時ヨリ午後四時 東京電氣株式會社 柳町工場―機器工場、工作工場、真空管工場、研究課 但軍事上秘密ノモノヲ除ク		
見學ノ目的	日本ニ於ケル電氣通信事業ノ觀察ニアルガ如シ		
体格及外觀上ノ特徴	背ハ五尺五六寸ニシテ瘦軀瀟洒ナル体軀ナリ		
特有ノ技能及性格ノ概要	無線機及真空管ニ關シテハ相當ノ技能アルモノノ如シ 性格ハ明朗ニシテ眞面目ナリ		

軍事能力及將來ノ豫想	見學中ニ於ケル舉動並一般ノ景況等	日本語修得ノ程度及對日感情	其ノ他參考トナルヘキ事項
軍事能力ハ凡ソド認メラレズ	工場内ニ於ケル見學中ノ態度ハ終始眞面目ニシテ非常ニ熱心ナル態度ニテ見學セリ 技術的方面ニハ熱意ヲ以テ見學セルモ特ニ工場内ノ一般狀勢ヲ觀察スルガ如キ態度ハ認メラレズ	日本語ハ殆ソド解セズ英語ハ流暢ニシテ對日感情ハ良好ト認メラル	一 案内並説明者 機器工場課長 宮地輝威 (終始英語ニテ應對セリ) 一 他ニ應接者 道田取締役、池田製造部副長、疋田營業部副長 蜂谷庶務課長 一 遞信省ヨリ黒川技師同行ス

東京電機工業株式會社



第二號

(裁決)行決 覽回後	帶 連			決行指定	局長 委員	決裁指定	三年	保存期限					
	長(部)局	長(部)局							大 臣	件 名	番 號	受 領	
									委	外國人工場參觀、件	壹	受第 二五 一 一 號	
													官 次
長 課			長 課										
				長局務主	官副級高	官與參							
				長課務主	主 務	書記官							
				員課務主									
				房官臣大	課局務主								
				了結領受	出提	領受	成番						
				昭和	昭和	昭和	軍務課第 五〇六 號						
				年 五月 廿七 日	年 月 日	年 月 日							
				七月 一日									

政務官回付(決行前)

陸軍省

(決行後)

審案 筆記者

株式會社
神戶製鋼所

陸

軍

副官ヨリ株式会社神戸製鋼所社長宛回答

(陸 普)

五月十八日附鳥庶辰發(軍秘)第八三號ヲ以テ願出
ニ係ル首題ノ件許可セラレ候ニ付御承知相成度

陸普第三四八二號

昭和十五年五月廿八日

副官ヨリ兵器本部總務部長宛通牒

五月三日附貴部經由五月十八日附鳥庶辰發(軍秘)
第八三號株式会社神戸製鋼所願出ニ係ル首
題ノ件別紙ノ通許可セラレタルニ付承知相成度

陸普第三四八二號

昭和十五年五月廿八日

副官ヨリ航空本部總務部長憲兵司令部

總務部長海軍省副官宛通牒

首題ノ件別紙ノ通許可セラレタルニ付承知相成
度

陸普第三四八二號

昭和十五年五月廿八日





鳥鹿及發(軍秘)第八 三號

工場參觀許可相成度件願

昭和十五年五月十八日

陸軍大臣 知 俊 六 殿

陸軍大臣 知 俊 六 殿
15.5.24
前午 官 臣

三重縣志摩郡

陸軍大臣 知 俊 六 殿

取辦役工場



修三

陸軍本部
經由庶務第四課
昭和十五年五月二十三日

航空本部
15.5.23

陸軍
15.5.24
7/2
政課

航空本部
15.5.25

本件至急意見承取

軍務局軍務課

航空本部

陸軍航空本部

第二課

軍務御中

工場名 株式会社神戸製鋼所鳥羽工場

參觀致シ度旨申出有之候ニ依リ左記
工場内地並ニ管社ニ對スル信頼ト技能ノ
對スル認識ヲ深メ日滿人ノ精神的

日午後三時ヨリ工場見學
完了ノ豫定

鳥庶發(軍秘)第八 三號

工場參觀許可相成度件願

昭和十五年五月十八日

陸軍大臣 畑俊六 殿

陸軍大臣 畑俊六 殿

15.5.24 前午 官

三重縣志摩郡

陸軍大臣 畑俊六 殿

取附役工場

陸軍 15.5.24 712 課

昭和十五年五月十八日

陸軍本部 經由庶務第四部 昭和十五年五月二十三日

航空本部 15.5.23

今般滿洲鐵鋼所ヨリ外國人工場參觀致シ度旨申出有之候ニ依リ左記ノ通參觀許可相成度及願出候也

左記

一、參觀ノ目的
内地文化産業ノ觀察ヲナシ内地並ニ當社ニ對スル信頼ト技能ノ向上ヲ圖リ併テ戰時下日本ニ對スル認識ヲ深メ日滿人ノ精神的融和ヲ圖ルタメ

一、ノ目次
日時昭和十五年六月六日午後三時ヨリ工場見學
全日午後四時完了ノ豫定

一、工場名
株式會社神戸製鋼所鳥羽工場

航空本部 15.5.25

陸軍 15.5.24 712 課



「參觀者身分又ハ職業氏名

滿洲國人、滿洲鐵礦所工員（添付別紙住居證明書ノ通り）

以上



居住證明願

弊社滿人工員左記十一名ハ今回日本文化ノ視察及工場見學ノタメ門司神戶大阪名古屋東京鳥羽方面ニ旅行致シ神戸製鋼所關係工場見學上必要有之候條肩書地ニ居住致シ居ルコトヲ御證明被下度此段奉願候也

記

赴日者氏名

原籍	現住所	氏名	年齢	職名	生年	月	日
奉天省遼陽市内文聖區東二道街十五號	鞍山市後立山滿鑄社宅九ノ十二	金玉琪	三十才	通譯	宣統三年	八月	廿四日
奉天省遼陽市協和區三道街	鞍山市後立山滿鑄社宅一ノ二	林樹潘	卅一才	旋盤工	宣統二年	六月	十三日
奉天省遼陽縣一區順家堡子	鞍山市後立山滿鑄社宅二ノ二	顧志林	三十才	仕上工	宣統三年	九月	十九日
河北省撫寧縣上梨峪莊	鞍山市後立山三道街五八號	尤耀廷	廿七才	平爐	民國三年	八月	三日
奉天省蓋平縣四區博洛舖村後達子堡	鞍山市後立山滿鑄社宅五ノ三	張啓國	卅六才	鍛工	光緒卅一年	十二月	十三日

山東省臨邑縣鳳紀庄	鞍山市後立山ノ九	周廣山	廿六才	鍛工	民國四年十二月十七日
奉天省遼陽縣第七區柳西屯	鞍山市後立山ノ三	趙仁山	廿八才	汽機工	民國二年四月八日
奉天省遼陽縣七署馬家屯	鞍山市後立山ノ七	馬子明	卅六才	鑄型工	光緒卅一年一月十六日
奉天省營口市老爺廟前胡同	鞍山市後立山ノ二	李尙書	廿六才		民國四年七月五日
奉天省營口市老爺廟前胡同	鞍山市後立山ノ一	楊濟忠	廿九才		民國元年九月九日
奉天省遼陽市內西關下頭	鞍山市後立山ノ三	霍維周	三十才	旋盤工	宣統三年三月五日

康德七年五月八日

鞍山警察廳長
阿部 孝 作 殿

鞍山市製鐵工場地區
株式會社滿洲鑄鋼所
事務取締役 田子富彦
印



町長印

右 證 明 ス

康德七年五月八日

鞍山警察廳長 阿 部 孝



右原本ト相違無キコトヲ御證明相成度願上候

昭和十五年五月十七日

鳥羽町長 吉 田 謙 介 殿

右證明候也

昭和十五年五月十七日

三重県鳥羽町長 吉田謙介



取締役 工務部長 小

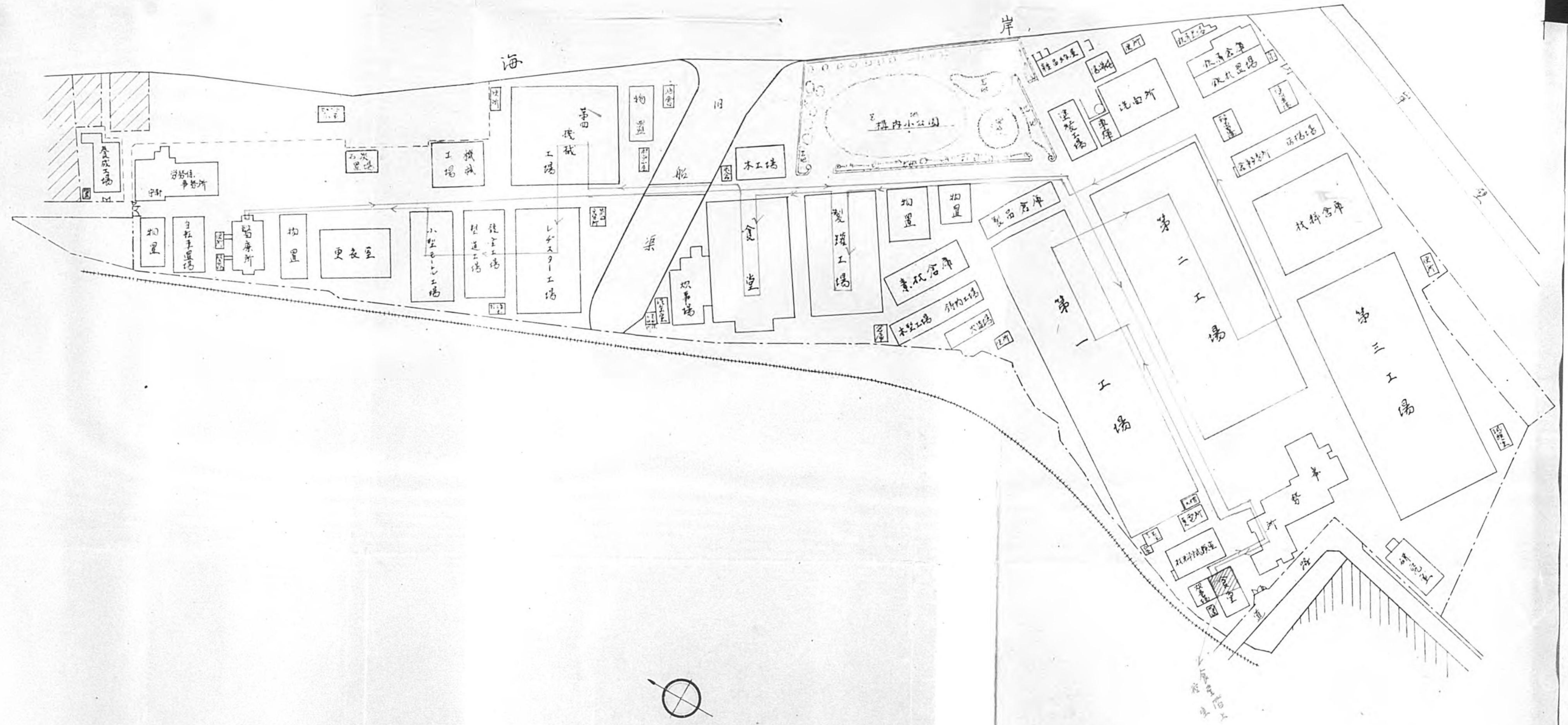
田 島 修 三



鳥羽町長 吉田謙介

株式会社神戸製鋼所鳥羽工場建物配置圖

$$S = \frac{1}{1200}$$



外國人工工場參觀ノ件

一、參觀ノ目的 內地文化産業ノ觀察ヲナシ内地並ニ當社ニ對スル信

頼ト技能ノ向上ヲ圖リ併テ戰時下日本ニ對スル認識

ヲ深メ日滿人ノ精神的融和ヲ圖ルタメ

一、參觀ノ目次 日時昭和十五年六月六日午後三時ヨリ工場見學

同日午後四時完了ノ豫定

一、參觀工場名 株式會社神戸製鋼所鳥羽工場

一、參觀者身分又ハ職業氏名

原籍	現住所	氏名	年齢	職名	生年月日
奉天省遼陽市内文聖區東二道街十五號	鞍山市後立山滿壽社宅九ノ十二	金玉琪	三十才通	靜官統	三年八月廿四日

奉天省遼陽市協和區 三道街	鞍山市後立山 滿鑄社宅一ノ二	林樹藩	卅一才	旋盤工	宣統二年六月十三日
奉天省遼陽縣一區順 家堡子	鞍山市後立山 滿鑄社宅二ノ二	顧志林	三十才	仕上工	宣統三年九月十九日
河北省撫寧縣上梨峪 莊	鞍山市後立山 三道街五八號	尤繼廷	廿七才	平爐	民國三年八月三日
奉天省蓋平縣四區博 洛舖村後達子堡	鞍山市後立山 滿鑄社宅五ノ三	張啓國	卅六才	鍛工	光緒卅一年十二月十三日
山東省臨邑縣鳳紀庄	鞍山市後立山 滿鑄社宅十三ノ九	周廣山	廿六才	"	民國四年十二月十七日
奉天省遼陽縣第七區 柳西屯	鞍山市後立山 滿鑄社宅十五ノ三	趙仁山	廿八才	汽機工	民國二年四月八日
奉天省遼陽縣七署馬 家屯	鞍山市後立山 滿鑄社宅十一ノ七	馬子明	卅六才	鑄型工	光緒卅一年一月十六日
奉天省營口市老爺廟 前胡同	鞍山市後立山 滿鑄社宅九ノ二	李尙書	廿六才	"	民國四年七月五日
奉天省營口市老爺廟 前胡同	鞍山市後立山 滿鑄社宅十ノ一	楊濟忠	廿九才	"	民國元年九月九日
奉天省遼陽市內西關 下頭	鞍山市後立山 滿鑄社宅二ノ三	翟維周	三十才	旋盤工	宣統三年三月五日

外國人工場參觀ノ件

一、參觀ノ目的 內地文化産業ノ視察ヲナシ内地並ニ當社ニ對スル信
 頼ト技能ノ向上ヲ圖リ併テ戰時下日本ニ對スル認識
 ヲ深メ日滿人ノ精神的融和ヲ圖ルタメ

一、參觀ノ目次 日時昭和十五年六月六日午後三時ヨリ工場見學
 同日午後四時完了ノ豫定

一、參觀工場名 株式會社神戸製鋼所島羽工場

一、參觀者身分又ハ職業氏名

原籍	現住所	氏名	年齢	職名	生年	月	日
奉天省遼陽市内文聖區東二道街十五號	鞍山市後立山滿鐵社宅九ノ十二	金玉琪	三十才通	譯官	統三年	八月	廿四日

奉天省遼陽市協和區 三道街	鞍山市後立山 滿鑄社宅一ノ二	林樹藩	卅一才旋盤工	宣統二年六月十三日
奉天省遼陽縣一區順 家堡子	鞍山市後立山 滿鑄社宅二ノ二	顧志林	三十才仕上工	宣統三年九月十九日
河北省撫寧縣上梨峪 莊	鞍山市後立山 三道街五八號	尤耀廷	廿七才平爐	民國三年八月三日
奉天省蓋平縣四區博 洛舖村後達子堡	鞍山市後立山 滿鑄社宅五ノ三	張啓麟	卅六才鍛工	光緒卅一年十二月十三日
山東省臨邑縣鳳紀庄	鞍山市後立山 滿鑄社宅十三ノ九	周廣山	廿六才	民國四年十二月十七日
奉天省遼陽縣第七區 柳西屯	鞍山市後立山 滿鑄社宅十五ノ三	趙仁山	廿八才汽機工	民國二年四月八日
奉天省遼陽縣七署馬 家屯	鞍山市後立山 滿鑄社宅十一ノ七	馬子明	卅六才鑄型工	光緒卅一年一月十六日
奉天省營口市老爺廟 前胡同	鞍山市後立山 滿鑄社宅九ノ二	李尙書	廿六才	民國四年七月五日
奉天省營口市老爺廟 前胡同	鞍山市後立山 滿鑄社宅十ノ一	楊濟忠	廿九才	民國元年九月九日
奉天省遼陽市內西關 下頭	鞍山市後立山 滿鑄社宅二ノ三	董維周	三十才旋盤工	宣統三年三月五日

閱

陸軍本部
經由庶第五三〇號
昭和十五年六月二十七日

庶務第五七六六號
昭和十五年六月二十七日

陸軍本部

三重縣鳥羽町
株式會社 神戶製鋼所鳥羽工場

電話番號
振替口座大阪二五〇二二
電信略號(上)又二五〇二二
取引 銀行鳥羽支店

鳥庶後發(軍秘)第一〇四號

昭和十五年六月十三日

壹
第二五二

陸軍大臣 畑 俊六 殿

陸軍省
昭和十五年六月二十七日

三重縣鳥羽町
神戶製鋼所鳥羽工場

田島修三

陸軍省
15.6.28
軍務課

航空本部
15.6.24
受領

外國人工場參觀報告書拜送一件
昭和十五年五月二十八日附陸普第三四八二號ヲ以テ陸軍省副官殿ヨリ御許可相賜申候外國人工場參觀ノ件無事終了仕候ニ就而ハ別紙報告書作成左記ノ通り受許封入拜送仕候間何卒御高覽賜度此段及御報告候

記

外國人工場參觀報告

一通

以上

本誌 神戶市聯合區協賛町一丁目(電話綜合一〇一五)

11 2511

5.30

外國人軍需品工場參觀報告

三重縣志
 三重縣志
 神戶
 取締役工場
 島修三

上 體 格 及 外 觀 特 徵	見 學 時 間	見 學 ノ 目 的	工 場 名	國 籍	氏 名
			株式會社 神戶製鋼所島羽工場	滿洲國人	金玉琪 外九名
自午后三時 至午后四時	内地文化産業ノ觀察ヲナシ内地並ニ當社ニ對スル信頼ト技能ノ向上ヲ圖リ併テ戰時下日本ニ對スル認識ヲ深メ日滿人ノ精神的融和ヲ圖ルタメ	見學年月日	概要	經歷ノ	
				金玉琪ハ滿洲國ノ日本經營中等學校ヲ卒業シ其ノ他ノ者ハ小學校三、四年卒業程度ニシテ滿洲鑄鋼所建設當時就職シ以來勞務ニ精勵ナシ來レル者ナリ	
昭和十五年六月六日					

金玉琪身長五尺三寸、其ノ他ノ者五尺六、七寸体格頑丈ニシテ服裝ハ國防色ステン衿ノ服ニテ滿人特有ノ容貌ヲナセリ
 年齢二十六才—三十六才程度

<p>軍事能力ノ程度 並ニ特有ノ技能 及性格ノ概要</p>	<p>見學中ニ於ケル 舉動、着眼 及一般ノ狀況</p>	<p>日本語修得ノ程 度及對日感情</p>	<p>其ノ他參考トナ ルベキ事項</p>
<p>軍事能力一般ニ低シ 特有技能 勞務係所員（通譯）一名 旋盤工二名 仕上工一名 鍛工二名 汽機 工一名 鑄型工三名 性格純朴ニシテ律儀ナル様ニ察セラル</p>	<p>工場ヲ解雇ニ見學セリ特ニ工場内ノ整頓、女性ノ作業、活動ノ狀況 ニ關シ非常ニ感歎ナシタル様子ナリ （滿洲國ニ於テ女性ハ工場生活ヲナサザル爲）</p>	<p>金玉琪ハ日本語堪能ナルモ其ノ他ノ者ハ日本語ヲ解セザル狀態ナリ 滿洲國ニ於ケル生活ノ安定ハ日本ノ御蔭ト非常ニ感謝ヲナシ對日感 情ハ良好ナルモノト察セラル</p>	<p>ナ シ</p>

陸軍 經由庶第五三〇號
 昭和十五年六月二十七日

鳥庶夜發(軍秘)第一〇四號

昭和十五年六月十三日

陸軍大臣 畑 俊六 殿

外國人工場參觀報告書拜送ノ件

昭和十五年五月二十八日附陸普第三四八二號ヲ以テ陸軍省副官殿ヨリ御許可相賜申候外國人工場參觀ノ件無事終了仕候ニ就而ハ別紙報告書作成左記ノ通り爰許封入拜送仕候間何卒御高覽賜度此段及御報告候

記

外國人工場參觀報告

一通

以上



三重縣志摩郡鳥羽町
 所鳥羽工場
 田島修



三重縣鳥羽町
 株式會社 神戶製鋼所鳥羽工場

電話番號 二二三三
 振替口座大阪二五〇五六二九
 發信略號(ト)又ハ(ト)五二九番
 銀行鳥羽支店

本社神戸市葺合區臨濱町一丁目(電話葺合一〇一連)

外國人軍需品工場參觀報告

三重縣志
 關神戶
 取締役工場
 修三

見學ノ時間 自午后三時 至午后四時	見學ノ目的 内地文化産業ノ觀察ヲナシ内地並ニ當社ニ對スル信頼ト技能ノ向上ヲ圖リ併テ戰時下日本ニ對スル認識ヲ深メ日滿人ノ精神的融和ヲ圖ルヲメ	工場名 株式會社 神戸製鋼所島羽工場	見學年月日 昭和十五年六月六日	國籍 滿洲國人 金玉琪	經歷ノ 概要 金玉琪ハ滿洲國ノ日本經營中等學校ヲ卒業シ其ノ他ノ者ハ小學校三、四年卒業程度ニシテ滿洲製鋼所建設當時就職シ以來勞務ニ精勵ナシ來レル者ナリ	体格及外觀 上ノ特徴 金玉琪身長五尺三寸、其ノ他ノ者五尺六、七寸体格頑丈ニシテ服裝ハ國防色ステン衿ノ服ニテ滿人特有ノ容貌ヲナセリ 年齢二十六才一三十六才程度
		氏名 金玉琪	概 要 金玉琪ハ滿洲國ノ日本經營中等學校ヲ卒業シ其ノ他ノ者ハ小學校三、四年卒業程度ニシテ滿洲製鋼所建設當時就職シ以來勞務ニ精勵ナシ來レル者ナリ			



<p>軍事能力ノ程度 並ニ特有ノ技能 及性格ノ概要</p>	<p>見學中ニ於ケル 舉動、着眼 及一般ノ狀況</p>	<p>日本語修得ノ程 度及對日感情</p>	<p>其ノ他參考トナ ルベキ事項</p>
<p>軍事能力一般ニ低シ 特有技能 勞務係所員（通譯）一名 旋盤工二名 仕上工一名 鍛工二名 汽機 工一名 鑄型工三名 性格純朴ニシテ律儀ナル様ニ察セラレ</p>	<p>工場ヲ解雇ニ見學セリ特ニ工場内ノ整頓、女性ノ作業、活動ノ狀況 ニ關シ非常ニ感歎ナシタル様子ナリ （滿洲國ニ於テ女性ハ工場生活ヲナサザル爲）</p>	<p>金玉玖ハ日本語堪能ナルモ其ノ他ノ者ハ日本語ヲ解セザル狀態ナリ 滿洲國ニ於ケル生活ノ安定ハ日本ノ御蔭ト非常ニ感謝ヲナシ對日感 情ハ良好ナルモノト察セラレ</p>	<p>ナ シ</p>

第 三 號

保存期限 十年 決裁指定 局長 執行指定

大臣 委	局長	次官	政務 次官	參與官	書記官	審案 筆者
	主務 局長	次官 委	政務 次官			
主務 局長	高級 副官	主務 副官	主務 副官	參與官	書記官	審案 筆者
主務 課長	主務 課員	主務 課員	主務 課員	參與官	書記官	審案 筆者

件名 航空許可の團案件
 受領番號 第七二七四大號
 起元應(課)名 中華航空

政務大官 回付 決裁 前連帶 軍務課 本件回付 航空本部 決行(決裁)後 軍務課 回覽課名

檢印保

陸 軍

大 臣 委
 局長 委
 次官 委
 政務 次官
 參與官
 書記官
 審案 筆者

了結 昭和 年 七月 二 日
 領受 昭和 年 六月 十 日
 提出 昭和十五年 五月 日
 領受 昭和十五年 五月 日
 號番 丙寅甲寅二五四號

陸普 副官ヨリ出願人へ通牒(上海當局を經由)

五月十日附出願首題ノ件許可セラレタルニ付軍機保護法施行規則

第十八條ニ依リ許可證ヲ交付ス 陸普第三八九九號 昭和十五年六月十日

返テ作戰地域ニ於テハ航空ニ關シテハ現地軍ノ指示ヲ受テラレ度念為

許可證

第三三五号 北京内ニニ國會街五〇號

中華航空株式會社

一行 為 定期航空往來航路ノタイムズニ空中輸送

一、場(已填) 所 上海—台北—廣東

一、本證有效 期間 自昭和十五年 五月 十一日 至昭和十五年 十二月 三十一日

一、條 件 1. 基隆、高林、澎湖島各要港上空ノ航空ヲ禁マズ

2. 台北飛行場ニ於テ燃料補給ノハトス

3. 本航空ニ際シテハ字真模、及眼鏡類ノ使用ヲ禁マズ

4. 必要アリト認めんトキハ陸軍官官署アリテ検査ヲ為サシメ又ハ條件ヲ変更シ若ハ本航空ヲ中止セシムルコトアリ



陸普

別官ヨリ各情軍長、支那派遣軍總參謀長、蔣際
高城、樹州、岳各所、夏月、台、先、通、第、一
首、路、一、件、為、成、甲、第、一、部、出、之、對、乙、部、一、通、許、可、セ、ル、云、云
ニ、休、休、命、通、第、一、

陸普第三八九九號

昭和十五年六月十日



陸普電

別官ヨリ上海軍兵隊長宛電報

六月三日附軍電第四三二號、別官ヨリ、件、前、四、十、同、一、條、件、ニ、
テ、許、可、セ、ル、依、命

陸普電一四七

561

昭和十五年六月十日



上意書第四三二號

航空許可願ノ件

昭和十五年六月三日

上海憲兵隊長事務取扱

三浦三郎

陸軍大臣 畑 俊六 殿



首題ノ件別紙ノ通中華航空株式會社ヨリ提出アリタルカ本件ハ軍機
保護法施行規則第五條ニ依リ許可支障無之

追而本件ハ現ニ運行シアルモノヲ更ニ期間延長ナルニ付申添フ

發送先

陸軍大臣

了



台灣憲兵隊經由

北連經一第四八五號

航空許可願

昭和十五年五月十七日

興亞院華北連絡部長官

陸軍大臣 畑 俊 六 殿

首題ノ件ニ關シ中華航空株式會社ヨリ別添軍機保護法ニ依ル航空
許可願提出アリタルニ付イテハ之カ許可方御配慮相成度
尙右ニ對スル許可書ハ御手數乍ラ當部經由中華航空株式會社宛寫
(當部ノ控)ヲ添へ御送付相成度

三〇四六號



岡



興亞院華北連絡部經由

興亞院華北連絡部經由
昭和十五年五月十三日



上海憲兵隊經由

昭和十五年六月壹日

中航運運第八五號

原籍

昭和十五年五月十日

現住所

山東省濰縣縣德山町四〇〇九

北京中華航空株式會社

兒玉常雄

明治十七年三月廿九日生



陸軍大臣 畑 俊 六 殿

航空許可願

左記ノ通航空致度ニ付軍機保護法施行規則第五條ノ規定ニ依リ御許可相成度此段申請候也

記

一 目的

(ノ)上海—廣東間定期航空（旅客貨物、郵便物ノ輸送實施ノ爲）
但シ臺北飛行場ニ於テハ燃料補給ノ夕メ離着陸ヲ行フノミニテ一
般旅客貨物郵便物ヲ取扱ハス

中華航空株式會社

(2) 定期航空ノ爲ニスル空中輸送

二 出發地、出發日時、通過地、到着地

別紙 甲ノ通

三 (1) 航空機ノ種類、機体ノ型式、發動機ノ型式、馬力

(2) 國籍記號、登録記號

別紙 乙ノ通

四 乘員ノ住所、氏名並ニ乘員ノ技倆證明書及免狀ノ種類

別紙 丙ノ通

五 許可期間

自 昭和十五年六月十一日

至 全 年十二月卅一日

六 其ノ他

添附寫眞各二葉（乘務員）

別紙 甲

東 廣 —— 北 臺 —— 海 上				區 間
海 上 ←—— 東 廣		東 廣 ←—— 海 上		
臺 北	廣 東	臺 北	上 海	出發地
一二時五五分 (每週火・金)	九時〇〇分 (每週火・金)	一二時一〇分 (每週月・木)	九時〇〇分 (每週月・木)	出發日時
臺北—淡水—富貴角—彰佳 —角山別島—舟山島— 上海	廣東—遮浪角—新竹—臺北	臺北—新竹—蓮花峰角— 遮浪角—廣東	上海—舟山島—角山別島— 彰佳—富貴角—淡水—臺北	通 過 地
上 海	臺 北	廣 東	臺 北	到着地
一五時三五分	一二時二五分	一五時三五分	一一時四〇分	到着時間

岩田博雄	佐野國一	新藤八百太	佐野直敏	浪本武義	森屋金兵衛	藤岡武	下谷清之	細野正坪	小八重正里	藤川義雄	岩本品三	小濱純一
日本航空機機關士	、	、	、	日本壹級通信士	、	、	、	、	、	日本貳級通信士	、	、
日本航空機機關士	、	、	、	日本壹級通信士	、	、	、	、	、	日本貳級通信士	、	、



島井清次



江島三郎



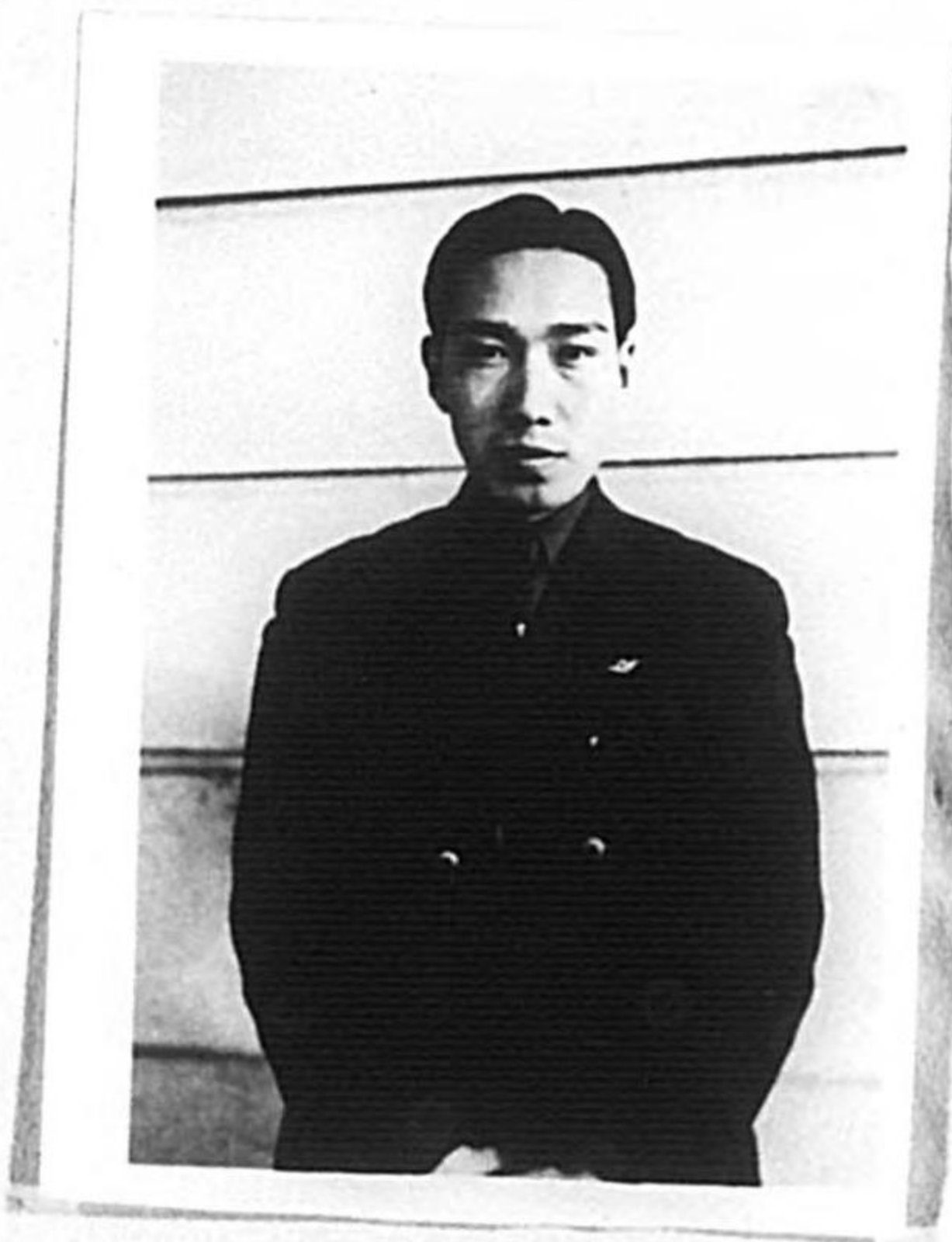
池内秀太郎



梅
敏
男



栗田龍男



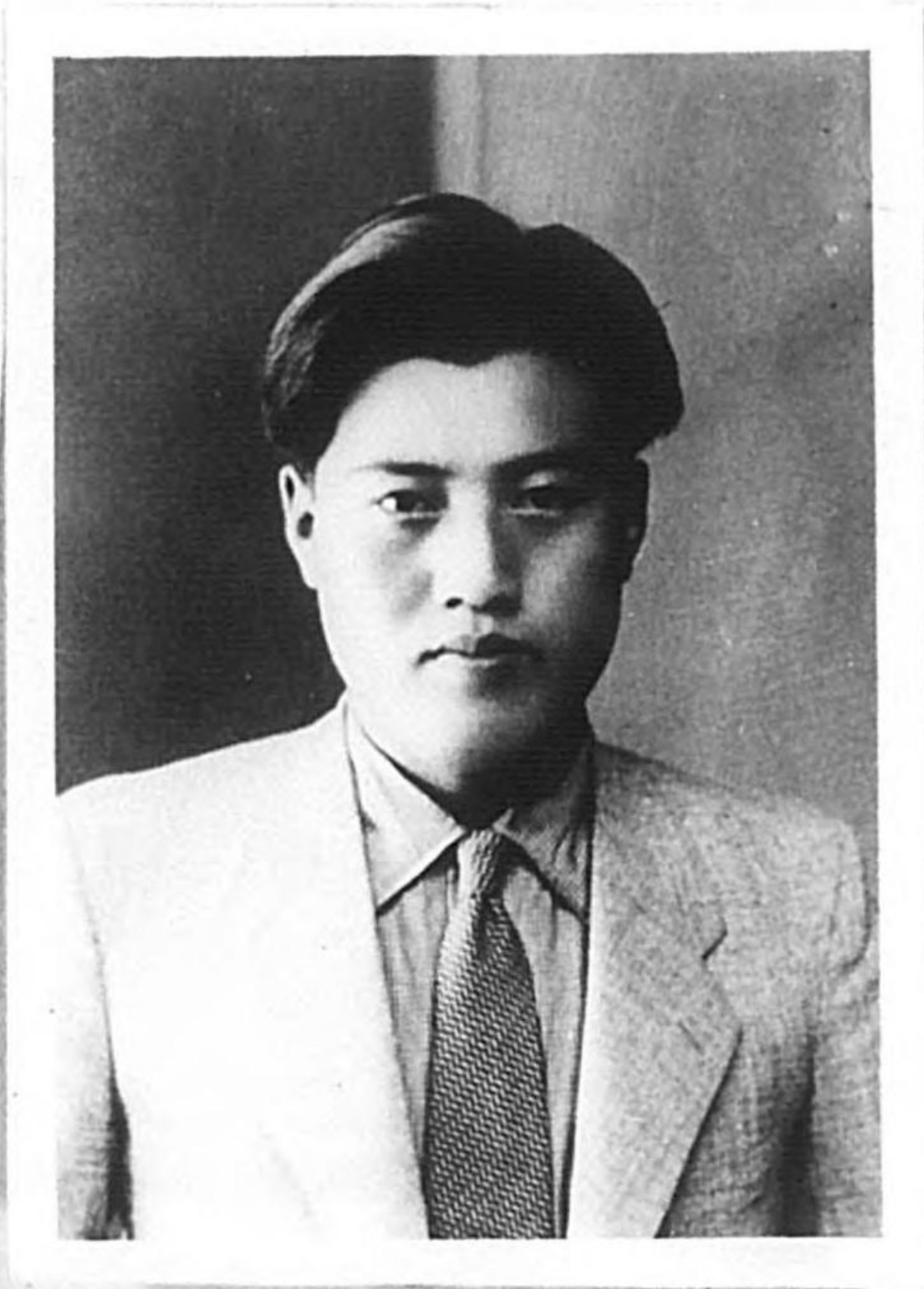
熊谷義則



神田好武



鈴木伴次



奥村十郎



山形徳衛



岡田理平



岡田勇



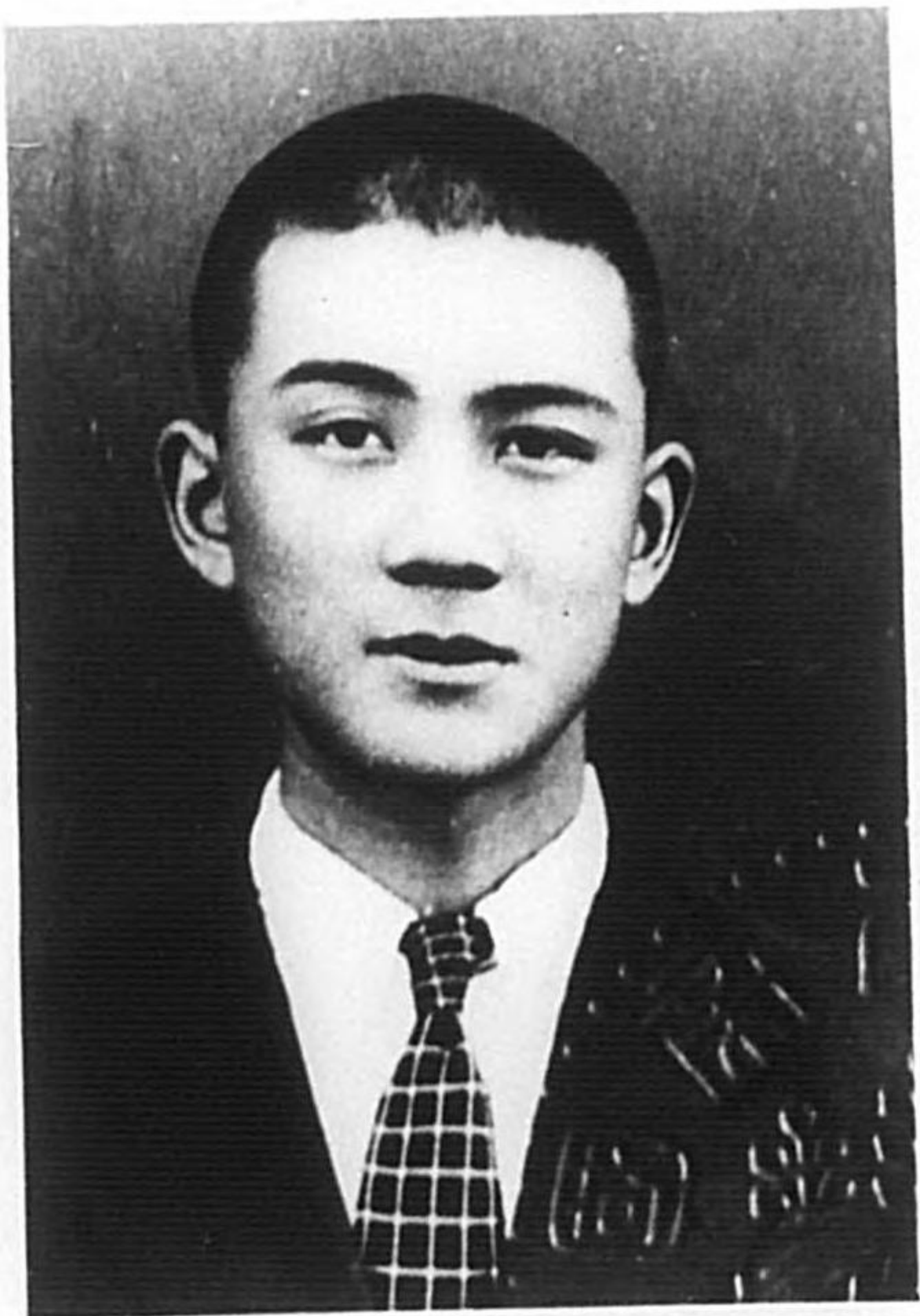
小山田次郎



板木芳



岩田博敏



佐野国一



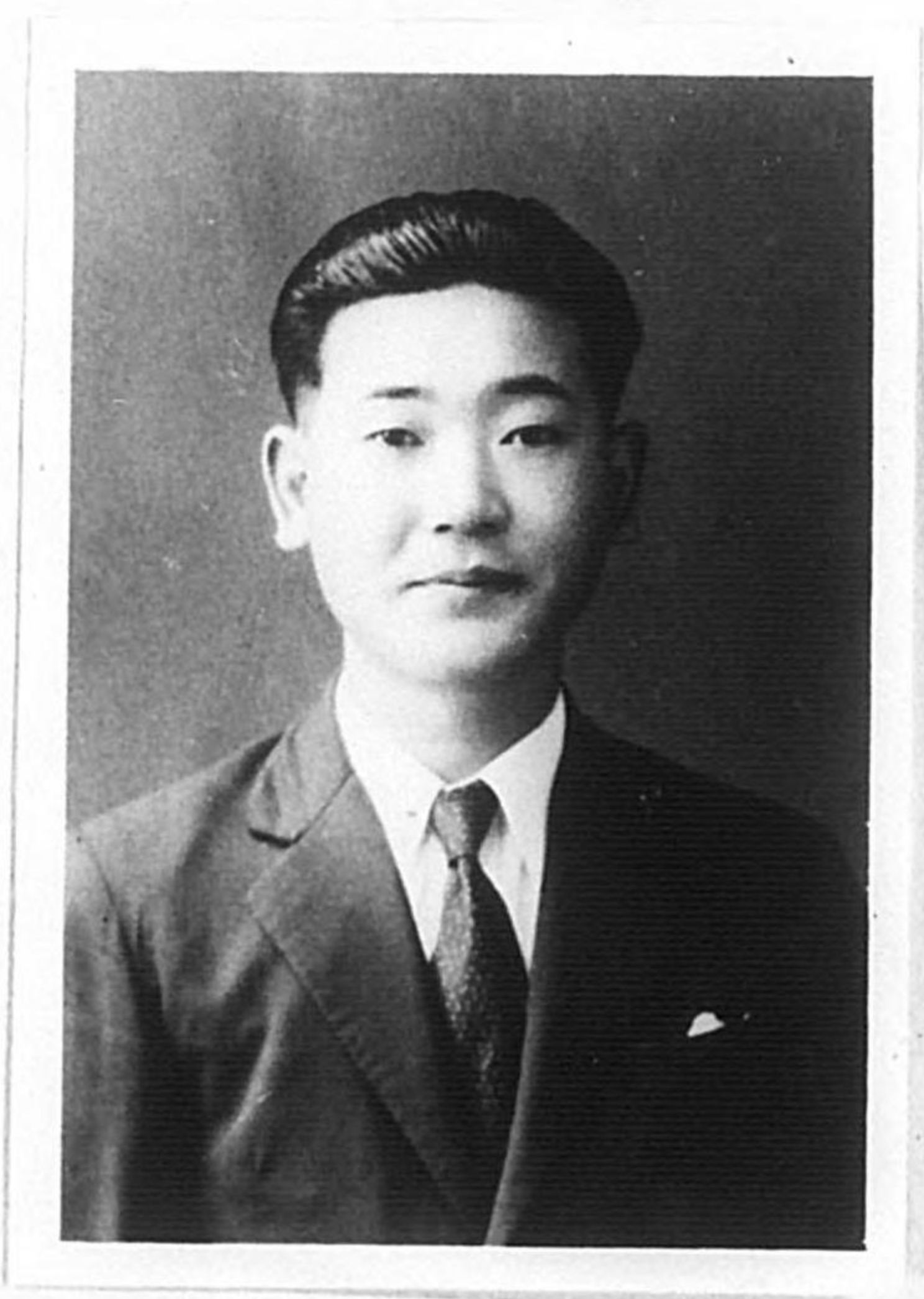
新藤八百太



佐々木敏



浪本武義



森屋金吾



藤岡

武



下
太
清
之



細
飛
心
坪



小
八
東
心
里



藤川義敏



岩本三



小
号
純
一

閱

防衛

陸軍省

卷二七四八

上憲書第四八三號

航空許可書交付シタル件通牒

昭和五年六月十八日

陸軍省副官部 御中

首題ノ件別紙ノ通六月十八日中華航空株式會社ニ交付シタルニ付
受領證添付通牒ス

陸軍省
昭和五年六月二十五日
午前
官印

陸軍省
15.6.24
3317
防衛課

上海憲兵隊本

陸軍省副官部

陸軍省

陸軍

發送先

陸軍省

(了)

受領證

陸普第三八九九號上海—臺北—廣東間航空許可證

右正二受領候也

昭和十五年六月十八日

陸軍省副官 川原直一 股



中華航空株式會社



中華航空株式會社

壹 2746

大臣 委	大臣 委	局長 主務 代	次官 委	政務 次官	政務 大官	參與官	書記官	審案 筆者
(裁決)行決 覽回後	帶	連	副官 高級	主務 副官	主務 副官	主務 副官	主務 副官	主務 副官
局長	局長	局長	課長	主務 課長	主務 課員	主務 課員	主務 課員	主務 課員
了結	領受	出提	領受	號番	件名	受領 番號	政務大官 參與官 回付 決裁 後前 課帶 名	決行(決裁)後 回覽課名
昭和 年 七月 日	昭和 年 六月 廿八 日	昭和 十五年 五月 廿八 日	昭和 年 月 日	內 務 省 第 二 九 八 號	外國船舶不 同港出入 之件	第 三 一 七 六 號	起元應(課)名 大連汽船株式會社	陸軍

陸
軍